

予報期間 5月16日から5月22日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 18日は、気圧の谷が北日本付近へ進み、前線が東・西日本付近にのびる。
- 19日から20日は、低気圧がアムール川中流からサハリン付近へ進む。気圧の谷は千島の東へ進み、次の気圧の谷が北日本付近へ進む。前線は日本の南へ南下する。
- 21日から22日は、低気圧がオホーツク海へ進む。前線はやや北上して、西日本南岸から東日本の南にのびる。

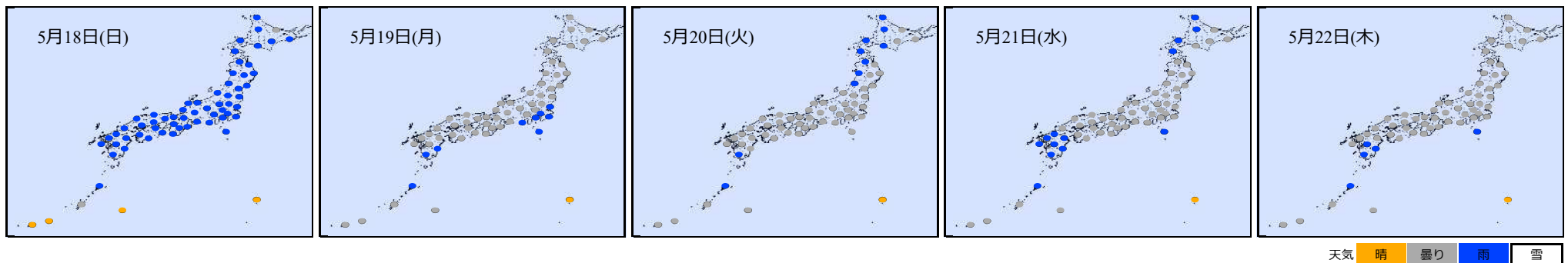
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 17日から18日は、前線が東日本から西日本に停滞する見込み。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、東日本から西日本にかけては大雨となるおそれがあり、前線の活動の程度によっては西日本では警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

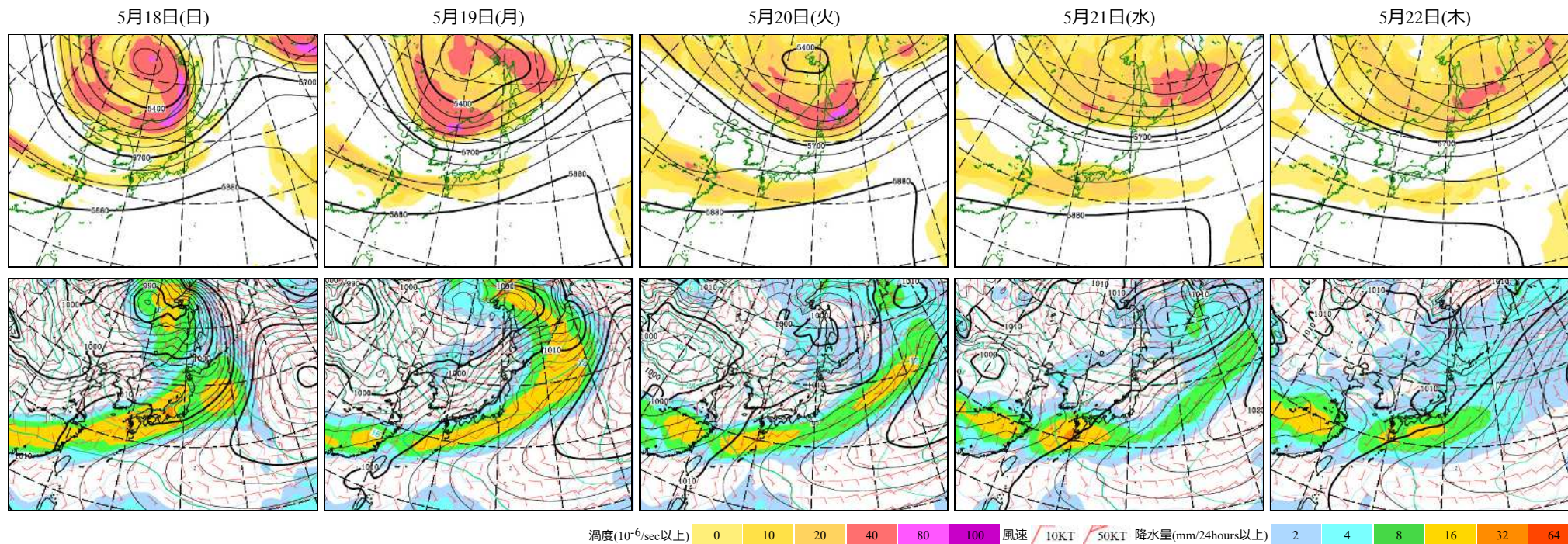
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

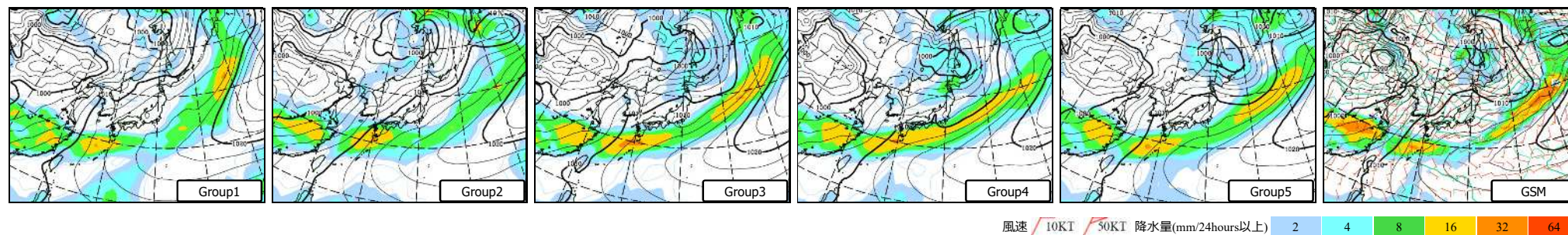


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、18日は晴れる所があるが雲が広がりやすく、奄美地方では雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月20日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日から21日は中国東北区に予想されていたトラフが北日本付近から千島近海へ東進する予想となった。これに対応して、低気圧の東進も1日程度早く、20日にサハリン付近へ進む予想となり、北日本の降水確率は20日は大きくなり、21日は小さくなった。
- 各モデルとも、前線は5820m付近の正渦度域に対応しており、18日は西・東日本付近を南下し、19日は奄美付近へ南下した後、20日から21日は西日本南岸付近へ北上する予想で、傾向としてはおおむね揃っているが、前線の位置についてはモデル間の差がみられる。
- スプレッドは、期間の後半はやや大きくなり、5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、19日以降は日本付近にのびる前線の位置に不確実性があり、前線の位置によって予報が大きく変わる可能性がある点に留意。